



高梁川流域
CROSSING

くらしき協力隊通信

2025.3 Vol.32

【最後の協力隊通信】

真備地区の地域おこし協力隊に着任してから、気づけばもう少しで約3年という月日が立つ予定でございます。

来月の2025年3月で、任期が終了し地域おこし協力隊を卒業することになりました。

今回は、3年間のまとめと今後の活動についてご報告出来ればと思います。

【1年目の活動】

1年目の活動はとにかく、初めてで慣れない土地での人脈作りや地域に溶け込むことで一生懸命でした。

町内のイベントに参加したり、他の地区の地域おこし協力隊と積極的に交流などを行いました。

その中でも、印象深いのが今でも毎月第二日曜に参加している、真備町の朝市です。受入団体である真備船穂商工会のメンバーと一緒に出店を行うことで培った交流関係は今の活動の一番のベースになっていると思います。

もう一つ印象に残っているのが、真備の復興竹灯りです。

この時が初めてガッツリ竹に触れ合うイベントでした。

準備がかなり大変で、普通のサラリーマンだった自分は

毎日ヘトヘトになっていたのが懐かしいです。

今では、竹林に入って竹を切ったり加工など、当たり前になっていますが慣れとは恐ろしいですね。



【2年目の活動】

2年目は、協力隊が主体となったイベントを開催したり、協力隊として出店イベントに参加したりなど、自分から積極的にイベントを行うようになり始めた年でした。やっぱり一番思い出に残っているのは、初めての主催イベントであった、「たけのこ掘り」です。地域の方にはかなりバックアップはしていただいたのですが、チラシを作って募集をかけたり、自分のたけのこ掘りの練習など初めての事尽くしで大変ですし、人が来てくれるのか不安でした。しかし、当日は多くの人に参加してくれて全員に喜んでもらえたので安心したのと、この経験がかなり自信になったと思います。その後は、竹炭を使った試作品の出店や竹を使ったワークショップなどを積極的行いました。



【3年目の活動】

最後の年は、退任後の事業化を目指して障がい者支援の団体と協力をして、竹炭を使った商品開発に力を入れました。理由としては協力隊の活動を通して、何か社会の役に立てればと考えたからです。目標としては、真備町の竹を使うことによって真備町の魅力発信、障がい者雇用を行った社会福祉活動、放置竹林の竹を使うことによる環境保全を絡めた事業の長期継続でございます。

現状の成果としては、自分たちが作った竹炭が建築資材として、能登の復興に使用されたり、海外の需要に向けての輸出を行いながら障がい者雇用の実現など少しずつ形になってきております。

今後の活動としては、上記事業の長期継続化と拡大を目指していきます。一旦は海外向けの消臭剤の原料としての輸出を更に増やしながら、真備町をはじめとする近隣の業者や農家さんへの土壌改良材料として販売など行います。将来的には事業のベースが出来始めたら、竹炭パウダーなど付加価値の高い商品を使って都市部へ販路開拓などを再開して、真備から多くの場所へ発信と展開をしていくのが現在の目標でございます。



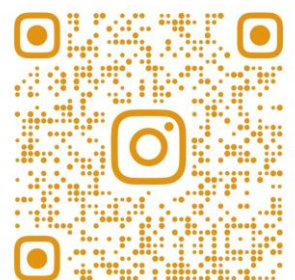
【編集後記】

長いようで、あっという間の約3年間でした。大変なことも多々ありましたが、多くの人に支えられながらここまでの活動を行うことが出来たと思います。協力隊になった動機は、自分の人生を変えてみたい、新しいことに挑戦してみたいという気持ちでした。結果としては、それは達成されたと思います。協力隊になって普通では味わえない貴重な体験を色々とさせていただきました。ある意味で退任後からが、本当の挑戦になると思います。これからも色々な面で、多くの人に活躍の姿をお見せ出来るように頑張っていきます。今までありがとうございました。



倉敷市真備町協力者 吉田

インスタのリンク https://instagram.com/yoshi_masa3?igshid=YmMyMTA2M2Y=



@YOSHI_MASA3